

第1回徳島県立農林水産総合技術支援センター外部評価委員会 会議次第

日時：平成23年8月2日（火） 13時30分～

場所：県庁10階 企業局会議室

1 開 会

2 あいさつ

3 議 事

（1）平成23年度外部評価の実施について

（2）平成24年度新規研究候補課題の事前評価について

（3）センターの新拠点整備（知の拠点）の概要について

（4）農業大学校の教育研修業務の評価

（5）連携取組事例プレゼンテーション

4 閉 会

第1回徳島県立農林水産総合技術支援センター外部評価委員会出席者名簿

日時：平成23年8月2日（火）午後1時30分～
場所：県庁10階 企業局会議室

氏 名		所 属 等
評 価 委 員	今 倉 秀 明	指導農業士
	上 杉 照 代	徳島県消費者大学校OB会会長
	大 松 弘 実	徳島県酪農青年女性会議 副委員長
	齋 藤 伸 一	徳島県農業協同組合中央会 参事
	橋 本 延 子	徳島県林業研究グループ連絡協議会女性部会 副会長
	濱 口 英 代	和田島漁業協同組合 参事
	浜 野 龍 夫	徳島大学大学院 ソシオ・アーツ・サイエンス研究部 教授
	諸 岡 慶 昇	高知大学教育研究部総合科学系黒潮圏 名誉教授兼特任教授
県 農 林 水 産 総 合 技 術 支 援 セ ン タ ー	安 宅 恒 夫	農林水産技術支援統括本部長（農林水産総合技術支援センター所長）
	増 野 朋 也	農林水産技術支援副統括本部長（農林水産総合技術支援センター次長）
	斉 藤 博	農林水産総合技術支援センター 企画研究課長
	水 岡 吾 郎	農林水産総合技術支援センター 普及指導課長
	河 野 功	農林水産総合技術支援センター 教育研修課長
	逢 坂 誠 志	農林水産総合技術支援センター 農業研究所長
	森 聡	農林水産総合技術支援センター 果樹研究所長
	北 村 聡	農林水産総合技術支援センター 畜産研究所長
	市 原 光	農林水産総合技術支援センター 森林林業研究所長
	團 昭 紀	農林水産総合技術支援センター 水産研究所長
安 岡 道 博	農林水産総合技術支援センター 農業大学校校長	

氏 名		所 属 等
県 農 林 水 産 総 合 技 術 支 援 セ ン タ ー	坂 口 英 則	農林水産総合技術支援センター高度専門技術支援担当上席技術指導幹
	竹 内 秀 人	農林水産総合技術支援センター 徳島農業支援センター所長
	田 中 清 隆	農林水産総合技術支援センター 鳴門藍住農業支援センター所長
	坂 口 善 彦	農林水産総合技術支援センター 阿南農業支援センター所長
	喜 田 直 康	農林水産総合技術支援センター 美波農業支援センター所長
	貞 野 光 弘	農林水産総合技術支援センター 吉野川農業支援センター所長
	河 野 明 義	農林水産総合技術支援センター 美馬農業支援センター 所長
	麻 植 正 一	農林水産総合技術支援センター 三好農業支援センター所長
事 務 局	徳 永 章	農林水産総合技術支援センター 企画研究課 課長補佐
	高 木 和 彦	農林水産総合技術支援センター 企画研究課 課長補佐
	住 友 寿 明	農林水産総合技術支援センター 企画研究課 主任
	澤 口 和 宏	農林水産総合技術支援センター 企画研究課 主任主事
	鈴 木 彰	農林水産総合技術支援センター 普及指導課 課長補佐
	東 條 浩 章	農林水産総合技術支援センター 普及指導課 課長補佐
	新 居 智	農林水産総合技術支援センター 普及指導課 主査兼係長
	林 秀 典	農林水産総合技術支援センター 普及指導課 係長
	大 塚 慶 治	農林水産総合技術支援センター 教育研修課 係長

平成23年度外部評価実施計画

1 評価のポイント

評価やご提案をいただくためのポイントは以下のとおりです。

(1) 課題別評価

- 1) 試験研究業務
研究課題の設定と成果の普及について
- 2) 普及指導活動
地域の特性に対応した普及課題の設定及び普及活動について
- 3) 教育研修業務
研修教育の内容について

(2) 総合評価

農林水産総合技術支援センターの研究・普及・教育の一体化による農林水産技術支援統括本部としての機能充実について
(※平成23年5月に「農林水産総合技術支援センター」を構成機関とする「農林水産技術支援統括本部」が本庁組織として設置された。)

2 評価の視点

評価に当たり参考にさせていただく評価の視点については、別紙のとおりです。

3 評価の手順

(1) 課題別評価

課題別の評価については、評価委員会ごとに別にお示しする評価表により行います。評価表は毎回の委員会終了後、指定の日までに事務局へご提出いただきます。

(2) 総合評価

総合評価については、第2回評価委員会開催時に別にお示しする評価表により行います。
評価表は、
評価委員会終了後、指定の日までに事務局へご提出いただきます。

4 評価結果の取り扱い

評価結果は、当該年度末までに報告書として取りまとめ、県ホームページにおいて公開します。

また、評価結果は、以下のように活用させていただきます。

(1) 試験研究業務

新規研究候補課題の事前評価による改善等

(2) 普及指導活動

普及指導計画及び、普及指導活動の改善等

(3) 教育研修業務

農業大学のカリキュラム等の改善等

5 外部評価年間スケジュール

時 期	内 容	場 所
平成23年8月2日(火) 13:30～16:15	<p><第1回外部評価委員会></p> <p>(1)平成23年度外部評価の実施について (2)平成24年度新規研究候補課題の事前評価について (3)センターの新拠点整備(知の拠点)の概要について (4)平成23年度農業大学校の教育研修業務の評価について (5)連携取組事例プレゼンテーション</p>	徳島市 (県庁10階 企業局会議 室)
平成23年11月下旬～ 12月上旬 1日	<p><第2回外部評価委員会></p> <p>(1)競争的資金の応募課題のプレゼンテーションと助言指導(各研究所) (2)平成24年度新規プロジェクト研究課題の評価結果について (3)最近の研究成果について (4)平成23年度普及指導活動の評価 【徳島農業支援センター, 鳴門藍住農業支援センター】 1)普及指導活動の評価方法について 2)農業支援センターの活動概要 3)重点課題の取り組み 4)重点課題の生産現場視察(2カ所)</p>	徳島市 (県庁又は 徳島合庁)
平成24年2月中旬	<p><第3回外部評価委員会></p> <p>(1)平成23年度外部評価活動報告 (2)徳島県立農林水産総合技術支援センター外部評価報告書(案)について 1)課題別評価 ①試験研究業務 ②普及指導活動 ③教育研修業務 2)課題別評価の協議 3)総合評価の協議</p>	徳島市 (県庁)

【別紙】外部評価の視点

評価対象業務	評価の視点
試験研究業務	<p><視点Ⅰ：研究課題の設定等について></p> <ul style="list-style-type: none"> ■ニーズ把握 <ul style="list-style-type: none"> ・本県農林水産業者のニーズを踏まえ、効果が十分見込まれる課題が設定されているか。 ■研究内容 <ul style="list-style-type: none"> ・目標が明確で具体性があるか。目標設定水準は妥当か。 ・研究内容が創造性・新規性・先進性に富むものとなっているか。 ・研究成果の技術移転や普及展開、波及効果は充分期待できるか。 ■研究体制 <ul style="list-style-type: none"> ・普及組織や産学官と連携した研究体制がとられているか。
普及指導活動	<p><視点Ⅰ：普及課題の設定等について></p> <ul style="list-style-type: none"> ■ニーズ把握 <ul style="list-style-type: none"> ・農業者の経営状況を踏まえ、普及が望まれる技術等のニーズを的確に把握しているか。 ・市町村、農協等団体、農業者等地域の関係者の合意は十分得られているか。 ■活動内容 <ul style="list-style-type: none"> ・目標を明確にして活動しているか。 ・進捗状況は的確に把握されているか。 ■活動体制 <ul style="list-style-type: none"> ・課題解決のための役割分担、活動スケジュール等について関係者の合意は得られているか。 <p><視点Ⅱ：研究成果とその普及について></p> <ul style="list-style-type: none"> ■目標達成度 <ul style="list-style-type: none"> ・研究成果の普及状況は目標に比してどうか。 ■連携状況 <ul style="list-style-type: none"> ・課題解決に際し、試験研究機関等との情報共有等が適切に行われているか。
教育研修業務	<p><視点Ⅰ：研修教育の内容等について></p> <ul style="list-style-type: none"> ■ニーズ把握 <ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムの編成や運営は、時代に合った農業経営や多様な担い手の要望に沿っているか (模擬会社の設立により、ビジネス感覚等の新たな感性や能力が醸成されているか) ■教育内容 <ul style="list-style-type: none"> ・育成目標とする人材像や求める学生像が明確になっているか ・マンツーマン指導によるプロジェクト学習は、個性に応じた創造力や問題解決能力の向上が図られているか ・カリキュラムは、専修学校として相応しいか ■関係機関との連携 <ul style="list-style-type: none"> ・行政、試験研究機関及び普及指導機関などとの連携は適切であるか